

こんにちは! 農業普及所です!



第128号

県中農林事務所須賀川農業普及所
須賀川市花岡3 4
TEL 0248-75-2180 75-2181
FAX 0248-72-8331
E-mail sukagawa.af02@pref.fukushima.lg.jp

盛り上げよう! きゅうり産地!

★須賀川管内のきゅうりの歴史

当普及所管内におけるきゅうり栽培は昭和29年に始まり、すかがわ岩瀬地区が昭和41年に「夏秋きゅうり」で、平成5年には「冬春きゅうり」で国の指定産地となり、同様に石川町が昭和45年に「夏秋きゅうり」で、それぞれ指定を受けています。また、全国有数のきゅうり産地として、特に「夏秋きゅうり」では、出荷量日本一をほこる福島県の主要産地として、位置づけられています。

★きゅうりの栽培の状況

福島県では、きゅうりを重点品目の一つに位置づけ、各種施策により産地振興を図っています。当普及所管内における現在のきゅうりの栽培状況は、夏秋露地栽培、防虫ネット被覆栽培、雨よけ栽培、ハウス栽培（半促成・抑制）の作型で、生産者はのべ710名、作付面積はのべ98.7haとなっています（系統出荷分）。近年は、高齢化により生産者は減少傾向にありますが、一方で、毎年新たにきゅうり栽培を始める生産者もあり、令和2年度の新規栽培者は32名となっています。

★きゅうりの栽培を支援します

須賀川農業普及所では、新規栽培者を中心とした「きゅうり基礎力アップ研修会」、ハウスきゅうりに関する環境制御技術に取り組む生産者対象の「ハウスきゅうり環境制御技術研究会」等の各種勉強会の開催など、支援体制を整えております。

また、将来にわたって産地を支える新たな担い手の確保に向けて、市町村やJAなどの関係機関と連携して、きゅうりの新規栽培を推進しています。

きゅうり栽培に興味のある方、新たに栽培を希望される方は、須賀川農業普及所までお問い合わせください。



図1 勉強会の様子



図2 目揃い会の様子



★おすすめするのはこんな人★

- ①新規に就農したい
- ②もっと農業収入を上げたい
- ③園芸品目の拡大を検討している
- ④定年退職後に農業経営を始めたい

リンドウ産地における高温障害防止対策

近年、生育期間中の高温により、リンドウの開花期における高温障害が発生しています。特に、8月下旬以降に開花する品種で多発しているため、遮光による高温障害の防止効果について実証しました。遮光率95%の被覆資材を用いて、遮光期間は「ふくしまほのか」で8月4日から8月21日、「しなの3号」で8月4日から9月1日としました。

実証の結果、高温障害花の発生率は慣行区で25～40%、遮光区で0～20%と遮光区では障害の発生が抑えられました。しかし、遮光区では花色の淡い株が見られたため、品種、遮光率、資材の実証を引き続き行います。



図3 実証ほ



図4 遮光の様子



図5 遮光区のリンドウ

稲WCS専用品種の実証ほを設置しました！

石川町の南山形地区において、稲WCS専用品種（極短穂茎葉型品種）中国飼224号（つきはやか）、中国飼225号（つきあやか）の実証ほを設置し、当地域への適応性を調査しました。この品種の特徴としては、①籾割合が非常に少なく不消化籾が減少する、②耐倒伏性がある、③乳酸発酵に必要な糖の含量が高い、④消化性が良くTDN（可消化養分総量）が高いこと等があげられ、他品種と比較して栄養価に優れた良質な稲WCSの生産が期待されます。

実証ほにおける生育は良好で、夢あおぼと比較して草丈が約2割程高くなりましたが、稲全体の重心が下にある品種特性のため、倒伏は見られませんでした。収量については、既存品種よりも10aあたり1～2ロール（1ロール約300kg）多い結果となり、専用品種の多収性を確認することができました。今後は、収穫したロールの発酵状態について品質調査を行う予定です。



図6 中国飼224号(つきはやか)



図7 中国飼225号(つきあやか)

Let's チャレンジ!! 頑張っている農家を紹介します!

★矢吹一也さん (平田村)

就農して3年目の矢吹さんは、ミニトマト7.3a、春ブロッコリー13a、秋ブロッコリー13a、シュンギクを栽培し、「道の駅ひらた」などの直売所へ出荷しています。また平田村は日本一辛い村としてハバネロの栽培・販売に力を入れています。矢吹さんもハバネロを栽培し、『平田村ハバネロ生産組合』の会長を務めています。

矢吹さんは、元々は平田村の生まれで、一度関東圏に移住したそうですが、海外に1年半農業研修に行った中で、やはり地元、平田村で本格的に農業に取り組みたいと思い、就農しました。

今後は、ミニトマト栽培を規模拡大し、就農5年目となる再来年に向けて、経営の安定化を図っていきたいと考えており、地域の担い手として期待されています!



図8 矢吹一也さん



図9 ミニトマト栽培

堆肥の活用 (水稲) について

春からの作付けに向け、堆肥を活用しましょう。水稲は、必要な窒素の7割以上を土壌と有機物から吸収します。このため、水田へ堆肥を施用し、消耗した窒素を補うことは、次作の稲の生育改善につながります。また、堆肥は連用することで地力を高めるだけでなく、土壌の物理性を改善する効果もあります。

堆肥を施用する際は、適切な施用量になるよう、表を参考に化学肥料の量を調整してください(表は牛ふん堆肥の例)。

表1 牛ふん堆肥の養分供給量(現物あたり)

	含有率 (現物中%)	肥効率 (%)	1 tあたり有効成分量 (kg)
窒素	0.8 ~ 1.1	20	1 ~ 2
リン酸	1.0 ~ 1.5	60	5 ~ 9
カリ	1.1 ~ 1.5	90	10 ~ 13

※福島県施肥基準より一部抜粋

リスクに備えて! “収入保険”

収入保険は、自然災害や価格低下だけでなく農業者の経営努力では避けられない収入減少が対象です。加入できる方は、青色申告を行っている農業者(個人・法人)です。収入保険と農業共済、ナラシ対策等の類似制度は、どちらかを選択して加入します。

補償内容は、保険期間の収入(農産物の販売収入など)が基準収入の9割を下回ったときに、下回った額の9割を上限に補填します。なお、補償の下限を選択することで保険料を安くすることも出来ます。

詳細については、農業共済組合いわせ石川支所までお問い合わせください。



畑をイノシシのエサ場にさせないために…

近年、岩瀬地方・石川地方でもイノシシの被害や目撃が増加しています。イノシシの捕獲頭数もここ数年増加傾向ですが、それ以上にイノシシが増加傾向にあると考えられます。

実は、イノシシの最も大きな死因は餓死によるものです。しかし、山に餌の少ない夏場や、ドングリが不作の年の秋冬に、農地にエサとなるものがあると、イノシシが生き延びやすく、また、農地をエサ場として認識してしまいます。

イノシシにとっては、人が不要とした収穫残さや放任果樹、生ごみも立派なエサとなります。生ごみや収穫残さは土に埋める、放任果樹は伐採するなど、野生鳥獣にとってのエサ場を無くして、イノシシが農地に寄り付きにくい環境を作りましょう。



農薬は正しく使いましょう！！

毎年、農産物における残留農薬超過等の事案が発生しています。農薬を使用する時には次のことに注意しましょう。

○必ずラベルを確認しましょう。

適用作物、希釈倍率、使用時期、使用回数をよく確認しましょう。

○飛散等防止対策を行いましょう。

①散布は、風がない(弱い)時に行う。②ドリフト低減ノズルを使用する。

③タンク等を洗浄した水が河川に流入しないように注意する。

※心配なことがある場合は、**散布前**に普及所等に相談しましょう。



GAP取得状況について

GAP(農業生産工程管理)は、食品安全だけでなく、環境保全・労働安全などの観点から、作業の効率化や農業経営の改善を図る手法であるため、福島県ではGAPの実践・認証取得を推進しています。

須賀川農業普及所では、GAPの認証取得を希望する個人・団体に対して支援を行っており、現在、JGAP認証6件(個人2件、団体4件)とFGAP認証4件が認証取得しています。また現在3件で認証に向けた審査を受けており、年度内に認証取得となる見込みです。

表2 GAP認証取得状況

JGAP 団体認証	ふくしまGAP生産者協議会(須賀川市) 夢みなみ農業協同組合すかがわ岩瀬地区野菜協議会大東支部直販部会(須賀川市) いわせの錦秋米生産部会(須賀川市) 古殿ミニトマト生産部会(古殿町)
JGAP 個人認証	渡辺果樹園(須賀川市) 農事組合法人グリーンファーム九生滝(平田村)
FGAP 個人認証	内山正勝さん(天栄村)、株式会社阿部農縁(須賀川市) 車田文彦さん(須賀川市)、「果物畑」鈴木果樹園(須賀川市)